

浄土



1996 10 October

法然上人鑽仰会・発行



咲いたら、幸せ。

楽しい、嬉しい。

ちょっと切ない、なつかしい。

いろんな話をしたり、聞いたり。

そんな何気ないことが、人と人との
固い絆の第一歩。

それぞれの人の、それぞれのお話に

花を咲かせるお手伝い。

安い市外電話の、0088です。

日本を楽しくする電話

0088

お問い合わせ・お申し込みは、日本テレコムお客様センターまでお気軽に。



0088-82 (無料)

または 0120-0088-82

●受付時間 9:00～23:00 (年中無休)

名刹を訪ねる

連載

平等院 浄土院

撮影・小堀祐二

宇治平等院鳳凰堂のシンボル、鳳凰



日本三名鐘に数えられる平等院の梵鐘は、60円切手に使われている

鳳凰堂の本尊、阿彌陀如来は唯一確証のある定朝作の仏像で国宝



鳳凰堂の由来は、正面から見るとまるで鳳凰が翼を広げ休んでいるように見えるからで、江戸時代からそう呼ばれたようだ。ちなみに左右に伸びる翼廊、後ろに伸びる尾廊は元は土間

平等院が平成6年12月17日に世界
文化遺産に登録された時の登録証



平等院のすぐ後ろに流れる
宇治川の流れは早い

平等院 浄土院



平安時代この世の極楽として建立された平等院。水面に写る景色はまさにお
経に書かれている極楽の通りだ（写真提供／北川恵次）



平等院を管理する浄土院

源頼政の墓。平家討伐にたつた頼政だが目的を果たせずこの平等院で自刃した



養林庵書院の庭。細川忠興築庭によるものだ



今年5月に修復された書院、重要文化財養林庵。額の書は松花堂井当で知られる松花堂昭乗によるもの



平等院神居文彰住職



鳳凰堂中堂の扉絵は日本最古の大和絵だ

浄土

1996/10月号 目次



カラーグラビア 連載〈名刹を訪ねる〉…写真=小堀祐二	
念仏に導かれて	長谷川静光 8
名刹を訪ねる 平等院 浄土院	真山 剛 16
御法語に聴く	24
表紙は語る 野草・花ごよみ	石井敏之 29
外国で暮らして	高津佳史 30
コラム	39
仏教相談	大室了皓 40
コラム	45
続・午後の日差しの中で	吉川英明 46
俳句は文学ではない	大畑 等 54
Jフォーラム	59
事務局便り	68
編集後記	70

表紙題字=浄土門主 中村康隆 猥下
表紙撮影=石井敏之
アートディレクション=近藤十四郎

念仏に導かれて

—— 亡き夫長谷川光洋の残したもの

長谷川 静光

今、私がお念仏をお称えして明るく生きていく事ができるのは、法然上人が浄土宗を開き下さったお蔭です。そして、お念仏を進んでお称えすることができるようになったきっかけは、得生寺前住職であつた夫、長谷川光洋上人の突然の死によつてでした。

光洋上人は大学在学中に進行性の腎臓病にかかり二十三年間の闘病生活の末に突然脳出血のため亡くなりました。四十三歳でした。その間二十七歳で人工透析、その後前々住職の父俊峨上人より腎臓をいただき移植、拒絶反応や薬の副作用で入院を繰り返し、ついに軽い脳出血をおこして透析生活になりました。透析生活は大変つらく、頭痛・吐き気・体中のかゆみ・痛み・歩行困難、厳しい水分制限で苦しみ、今度は結婚して家族もある姉俊子さんより腎臓をいただき二度目の移植手術を三十五歳の時に受けました。けれど又、拒絶反応が起き腎臓の機能が低下、血圧も高くなり、遂に脳出血を起こし一晩で意識不明のまま亡くなつてしまつたのです。

私は同窓生の夫が進行性の腎臓病である事は知っていましたが、二十二歳の時に結婚致しました。

夫は二十三歳の時に初めてお念仏のありがたさを体験し、お念仏を称えずにはいられない心境を話してくれました。それから二十年間お念仏ひとすじ、正に血のにじむような求道・布教・念仏生活でした。病気の体験から得たお念仏の信仰をご縁のある方、苦しみをかかえている方々に伝えようと命を削つて布教活動に取り組む姿を思い出すと涙がこぼれ

ます。流れる汗が血の汗に見えました。

体調がすぐれない時が殆どでしたので、少しでもゆっくり休養してもらいたいと思っていましたが、休む事なく本を読み、テープを聞き、原稿を書き、講習会・勉強会・布教へと夜昼なくでかけていく姿が今でも目に焼き付いています。

ある時は、夜中に突然体が冷たくなり全身が震え出し、このまま死んでしまうのではないかと思つた時もありました。その時は二人の娘を起こし、熱湯に浸した何枚ものバスタオルを夢中でしばらく体中にまきつけて暖め、やっと生き返つたという状態でした。けれども朝がくると、どうしても受けない講習があるからと出かけて行ってしまうのです。どんなに具合が悪い時でも入院中でもいつも真剣でした。大事な腎臓をいただいて生かされているありがたさをいつも感じ、命が短い事を知っていたから一瞬も無駄にできなかったのだと思います。

体は弱い夫でしたが、私は夫を頼り切って生きてきましたので、亡くなった時は大変ショックでした。いくら重い病氣を持っていても亡くなってしまうという覚悟をしていなかったし、あまりに突然の事で気持ち混乱してしまひどうしようもありませんでした。

倒れた時から亡くなる迄は丸一日でした。倒れて救急車で病院に到着した時は脳死の状態、先生より希望のもてない状態と説明されてもその言葉を信する事ができず、『今迄も何回も助かってきたのだから今度も、又すぐ助かるだろう。お医者様は誇張して説明して

下さっている』としか思えませんでした。目の前で心臓マッサージを受けている姿を見ても生き返るのだと思いついていました。私は何もできずに意識不明のまま横たわっている夫に、今迄のつらかった事、がんばってきた事、楽しかった事、これからの希望を語りかける事しかできませんでした。

そして、とうとう心臓が停止し、先生が何かおっしゃった時、夫は亡くなってしまいました。

私はその時、急に地球の引力や重力を体中に感じ、病院の廊下の床の底に引きずり込まれるように立っていられたのを感じています。三人の子ども達が私をものすごい力で持ち上げてくれ支えられてやっと立っていられるという状態でした。それからの二年間近くは世の中が灰色で、色のない世界でした。又、記憶力がなくなってしまう大変に困りました。車のハンドルを握る手に力が入らず、運転もできなくなり、更にやつとの思いで外に出ると家族連れや夫婦で連れ立って歩いている姿が目に入り、それがつらくて下を向いて歩いていました。家の中にもいつも閉じこもっていたかったです。地面に引きずり込まれるような感じで立ってられない状態はいつまでも残り苦しい思いをしました。そして夫の亡くなった事がどうしても信じられずに娘達によく、

「お父さんはどこかに生きていて、今に帰ってくるのよ」と言っていました。すると娘達は、

「お父さんはもうお骨になってしまったのよ。お母さんはお骨になった時、見ていたではないの」

と言われハッと我にかえった事もありました。柱の陰、戸の向うにいろような気がしてどこへ行っても夫の姿を探していました。

こんな私でしたので、自坊の得生寺のご本尊阿弥陀様におつかえする事ができず、夫の続けてきたお念仏も途絶えてしまった事は申し訳なくて、お寺にただ住まわせていただいているのを引け目に思っていました。又、夫が亡くなる時にお念仏をお称えする事ができなかつたのは私にとって最もくやまれる事でした。あれほどお念仏をお称えしていた夫が亡くなる時に、私はお念仏をお称えする事ができなかったのです。頭の中ではお念仏をお称えしなくてはと思っていたのですが、どうしても声に出なかつたのです。自分の事ばかり考えていた自分がとても情けなく、心の中で夫に謝ってばかりいました。

そんな時に僧侶の資格をいただいたらという皆様のおすすみが、あり夫の亡くなった年に律師養成講座を受講、次の年には二期を受講、十二月に増上寺で伝宗伝戒道場を受けさせて頂く事ができました。

けれどもそれ迄私には、お念仏をお称えしていてもお念仏の有難さが実感できなかったのです。お念仏をお称えしていると病気でつらい思いをしてきた事、亡くなった時、それからの事など色々思い出して只悲しくなってしまう、そんなお念仏だったのです。伝宗伝

戒道場でのお念仏もとにかく雑念だらけのお念仏でした。

ところが十日程たった頃大毘盧阿彌陀様を見上げて礼拝を繰り返している時に次のように感じたのです。

『あ、阿彌陀様は私以上に私の事を悲しんで下さっている。阿彌陀様は今も私を救おうとずっと願いをかけて下さっているのにどうして気づかなかったのだろう。私は決して一人ではない。これからは阿彌陀様と共に生きて行く事ができる。私を救いたいとずっと願いをかけていて下さったのに気づかず、只機械的にお念仏をお称えしているだけだった。声に出して阿彌陀様、お救い下さいとお呼びするのを阿彌陀様はずっと待っていて下さったのだ。本当に申し訳ない事をしてきてしまった』

よくお念仏は有難いと申しますが、その時に初めてお念仏は有難い、そしてお称えすれば必ず救われるという言葉がとても良く分かったのです。二十年間もお念仏の浄土宗のお寺に縁があつて暮らしてきたのに、お念仏の有難さを知らずにきてしまっていたのです。有難くて涙が止まりませんでした。

お念仏の有難さを感じた時、外の景色が光って見ええました。冬真最中でしたが落ちないで残っていたカエデの葉の黄色、地面に落ちていたマツボックリの茶色が鮮やかに見ええました。灰色の世界が色のついた世界になったのです。その日からどこを通っていても歩いていても、道端の草や木にきれいに生えていてくれて有難うとお礼を言っていました。と

でもおかしい話ですがお礼を言うのに忙しい思いをしたのです。

無事に伝宗伝戒道場を修了させて頂く事ができ僧侶の資格をいただきました。それから今日迄の二年八カ月、色々な事がありました。

夫は境内にある保育園の園長をしておりましたので、私は夫の亡くなったあとを引き継いで園長となりました。園の仕事を手伝いながら、それ迄も園長の補佐をしておりましたが、人前に出る事が以前から好きではなかったため、大変に苦勞しました。園長という仕事は孤独でした。困難な事にぶつかると自分一人で解決しなくてはと思いお念仏を忘れてしまいます。そんな時は目をつぶってそのままじっとしてれば死ぬ事ができ、夫がいる極樂浄土へ私も往生できるのではないかなどと思いつめてしまう事も何回ありました。

法然上人は只一向に念仏すべしというお言葉をご遺言の一枚起請文に残されました。私はこのお言葉が良く分かりませんでした。けれども大変な事の連続でしたが、只一向に念仏すべしのお言葉をひたすら信じてお念仏を声に出してお称えてまいりました。お念仏をお称えする事が身についていませんでしたので、お念仏を忘れてしまう時もありました。けれども苦しい時、つらい時法然上人の只一向に念仏すべしのお言葉を信じて、南無阿弥陀仏と声に出してお称えすると、そのお念仏の声に励まされ前を向いて困難に立ち向って行く勇氣が湧いてまいります。

法然上人の八十年のご生涯をかけての血のにじむような長い苦勞、そしてすべての

人々が平等に救われるようにとお念仏のみ教えをお説き下さったご苦勞、日に六万遍更には七万遍もお念仏をお称え下さったご努力を思いますと、私は益々お念仏をお称えしたくなつてまいります。阿弥陀様どうかお救い下さいと声に出して南無阿弥陀仏とお称えすれば必ず救われます。夫が亡くなった時私は以前の自分と全然違ふ自分になつてしまつた程の最悪の状態でした。けれども今はお念仏の有難さ、お念仏をお称えすれば必ず救われる事が信じられます。お念仏をお称えすれば何があつても、何が起つても勇氣を持つて生きて行く事ができるようになりました。お念仏によつて苦しい事から逃げず正面から受け止められる事ができるようになりました。救われる事など決してないはずの私でも救われるのです。これも法然上人の残して下さつた阿弥陀様のご本願のお念仏のお蔭です。

私のまわりにも私と立場は違ひますが様々な御苦勞をされ一人て背負つて苦しんでいる方が大勢おられます。私はいつも皆様のお話しをお聞きし皆一緒に苦しいのだ、自分一人ではないと心強く感じ励まされる思いが致します。一緒に苦しみ悲しむ事ができるようになつたのもお念仏のお蔭です。今、私にできる事は勇氣を持つて明るく生きて行く事のできるお念仏を、私の体験を通して伝えていく事です。

そして亡夫光洋上人が命をかけて伝えぬいていきたかつたお念仏を、これからは私が伝えていくのが私に与えられた使命と思い、法然上人のみ教えを灯とし、念仏者としてその使命を果たしぬいてまいりたいと思います。

(茨城・得生寺)

平等院 浄土院

連載

名刹を訪ねる

真山
剛





JR宇治駅前の観光案内図。宇治川が中央を流れる

今年の八月末、北米照明学会の野外照明部門最優秀賞を平等院が受賞した。この学会は照明に関して世界で最も權威のある学会で、世界各地からの千三百件以上の応募の中から選ばれたもので、日本からは平等院が唯一の入賞となったという。

平等院と聞いて、すぐ思い出すのは、そう、十円玉。日本国と刻まれた表を飾る絵柄が平等院だ。手許の十円玉を見ると中央に大きなお堂。お堂の屋上の両端に鳳凰が向かい合い、お堂の左右には回廊が伸びていて、その先にはちよつと小ぶりの楼閣が。普段何げなく使っている十円玉だが、この平等院、硬貨にデザインされるくらいで、まさに日本を代表する寺院である。

今回の野外照明部門最優秀賞を受賞したのは、平成六年十二月十七日に世界文化遺産に登録されたのを記念した平等院鳳凰堂のライトアップ（大晦日から平成七年一月三日まで）で、「祈りと歴史と浄土」をコンセプトにしたものだ。創建当初の朱色や池の波紋をひかりで演出したそのライティングには日本古来の光もいかされ、それはまるで「絵画のような」美しさで世界で絶賛された。平安の世に栄華を誇った藤原氏がこの世の極楽として建立したのがこの平等院だが、九百余年の年月を経てまさにこの世の極楽としての美しさが世界中に認められたということである。

ついホットなニュースをお届けしてしまったが、この平等院にと

平等院参道の入り口の碑



つては一昨年の世界文化遺産登録も価値ある出来事だ。世界遺産、あまり聴き慣れない言葉だが、これはユネスコ国連の教育・科学・文化機関）が一九七二年に採決した世界遺産条約で定められた人類全体のために残すべき文化遺産、自然遺産のことで、その国を代表する資産であり、かつ世界に普遍的に認められた資産に与えられるものである。ちなみに万里の長城、バッキンガム宮殿などが文化遺産、ガラパゴス諸島、グランドキャニオンなどが自然遺産として登録されている。平等院は一昨年の第十八回世界遺産委員会で、宇治上神社、金閣寺、銀閣寺、清水寺などと一緒に『古都京都の文化財』として世界文化遺産に登録され、その記念のライトアップが今回の受賞と、まさに二重の名誉というわけである。

さて、いままでにこのシリーズでいくつかのお寺を紹介してきたが、今回のこの平等院、とても紹介しきれない程の国宝や重要文化財、そして歴史がある。

日本を代表する上に世界遺産だから無理もない。百聞は一見にしかず、ぜひ一度京都に行ってみてください、というわけにもいかないの、バスガイドよろしく駆け足で案内しよう。

平等院のお寺としての歴史は今を去ること九百四十四年前に遡る。清和天皇の貞観年中に源氏物語のモデルになったといわれる源融（みなもとのおと）が別荘として造り、その後、宇多天皇の別荘と



宇治といえばお茶が有名で、いまでも老舗の茶屋が並び

なったが、自らの栄華を望月にたとえた関白藤原道長がそれを譲り受けた。ここまでは宇治院という名の別荘だったが、道長の子、頼通が父の死後二十五年目に寺院に改め、その名を平等院とした。これが永承七年（一〇五二）で、お釈迦さまの入滅後二千一年目という末法の一年目だった。翌年には仏師定朝による阿弥陀堂が造られたが、これがいまの鳳凰堂だ。ちなみに金堂が鳳凰堂と呼ばれるようになったのは江戸時代からで、屋上の二羽の鳳凰と、正面から見るとあたかも伝説の鳥、鳳凰が優雅に羽を広げて休んでいるように見えることから鳳凰堂と呼ばれるようになったという。

平等院は宇治川のほとりにあるが、宇治は奈良時代の頃より、奈良京都、近江を結ぶ交通の要路で、京都に都が移ってから郊外の別荘地となっていた。藤原氏の栄華も終わると、交通の要所だけに何度の戦の地となった。佐々木、梶原の宇治川の先陣争いや、楠正成と足利尊氏の戦場もこの宇治の地だ。『源氏物語』の最後の十帖は「宇治十帖」とも呼ばれるが、舞台もまさにこの宇治である。時代がくぐって江戸時代には宇治茶が徳川家献上のお茶となり、その様子がわらべ歌にも歌われた。また『宮本武蔵』で武蔵とお通の待ち合わせ場所もこの宇治橋のたもとで、いまでもそのお茶屋は続いている。

さて、寺院としては、創建当時は天台宗寺門派のお寺だったが、豊臣秀吉の時代には各宗派の僧侶がここに集まったという。その後、



観光客に鳳凰堂の説明をする神居住職。年間の観光客は百万人近いという



鳳凰堂手前の藤棚。これも名木百選のひとつだ

外護者もなく荒廃した明応年間（一四九二―一五〇〇）に浄土宗の僧栄久上人が近衛家の帰依を得て、平等院を復興し、浄土院を建立した。これにより以後天台系と浄土宗で管理することになる。近代になってからは平等院自体は単立（どこの宗派にも属さないお寺）で塔頭の天台系最勝院と浄土宗浄土院が管理している。

余談だが、牛に曳かれて善光寺と詠われる信濃の善光寺も善光寺自体は単立で、真言宗の大勧進と浄土宗の大本願という二つの宗派のお寺が管理、運営していると聞いた。お寺というの色々な形態があるものだ。

話を戻すと、栄華を極めた藤原氏がこの世に極楽を再現させたのがこの平等院なのだが、その中心は日本で唯一一定朝作と断定できる仏像、阿弥陀仏が安置される鳳凰堂である。本尊阿弥陀仏の光背（こうはい）は十二の光仏が配される飛天光背、上にかけられている天蓋（てんがい）は豪華な木彫りの二重天蓋で日本唯一のもの、本尊の座る蓮台（れんだい）は、もうこれ以上は開かないという形をした吹寄せ式九重座の蓮台で、まさに藤原氏の栄華を表している。本尊を取り囲む壁には雲中供養菩薩が五十二体。また九品来迎図や日本最古の大和絵が板壁や各扉に描かれている。また鳳凰堂の正面には阿字池が広がり、そこに鳳凰堂が映る様はお経に説かれる極楽とそっくりという。また最近の発掘調査でわかったことだが、この池

吉川英治著『宮本武蔵』で武蔵を待つお通が休んだ
茶屋、通円がいまも残っている



を海にたとえ鳳凰堂の左後ろ斜めを水源とし、みぎわと流れを表現した高度な作庭技術で背後から川が流れ込む造りになっている。その川が流れ込む海が来世、川が現世を表す庭園だという。

また此土と彼土の境界はずっと下がって宇治川の対岸という。池には浅瀬と深場もあり、また池越にみると本尊の顔だけが見える仕掛けもほどこされている。

このように、鳳凰堂は回りを水で囲まれ、戦火を逃れたが、建立時にはすべてがまばゆい金色だったうえに、この周囲の庭園の造りである。まさにこの世の極楽に違いない。

「極楽とは自然のなかにあるもの。鳳凰堂の仏や壁画、屏絵、そして庭園を、まわりの環境を見ていただければ、こう思えるのではないでしょうか。九百五十年の月日が経った今でもここは極楽なんです」

浄土院第四十世神居文彰住職は極楽をこう説明してくれた。神居文彰住職は尾張の浄土宗のお寺の出身で、名古屋の建中寺、東京の祐天寺などのお寺で修行していたという。学生時代から臨終をテーマとした問題を研究している。

まだ若く見え、思わず何年生まれですかと聞きたくなったが、よすことにした。別に年齢で住職を努めたり、お寺を守るわけではない。大切なのはその人柄や人格だ。



浄土院第四十世として様々な行事に追われる

平成三年にこのお寺に入り、まだ何かと忙しい中、貴重な時間をいただき境内を案内していただいたが、その案内もじつに丁寧で心優しかった。これだけのお寺だと、いろいろ大変だろうと思ったが、どうもいらぬ心配のようだ。

この神居住職は平等院の住職・代表役員でもあり、また塔頭の浄土院の住職でもあるのだが、その浄土院の客殿、養林庵も今年五月に修復を終えたばかりで、この建物も重要文化財である。養林庵にはそれは見事な藤花透かしの欄間や襖絵、枯れ山水の庭、いくつもの古文書などが残っている。また平等院の境内の藤棚は名木百選のひとつに数えられている。梵鐘も六十円切手のデザインとしてつかわれているが、仏像やその他収蔵品にも切手にデザインされたものが数多くある。

これでもほんの一部の案内で、新人バスのガイドのそしりは免れないが、とにかくこうして紹介したほとんどのものが国宝で、なかでも鳳凰堂は日本で最も国宝が凝縮されている空間といわれ、平安文化が今も周囲の環境とともに息づく寺院なのである。

「極楽いぶかしくば、宇治のみ寺をうやまえ」とは平等院創建当時の童歌の一節だが、極楽を信じようと信じまいと、一度は見ておきたい、そんな思いにかられる名利である。

(ルポライター)

御法語に聴く

しとはこの時西に向こうべからず、又西を
うしろにすべからず、北、南に向こうべ
し。おおかたうちうちいたらんにも、うち
ふさんにも、かならず西に向こうべし。

『示或人詞（あるひとにしめすことば）』

西を意識する

クルマを運転していて困ることといえば、やはり渋滞でしょう。

約束の時間までに着くことが出来るかどうか危ういときには余計にイライラが募りますが、そこに人間の生理現象の欲求を伴った場合の焦りときたらありません。高速道路などで、やっとの思いでたどり着いたサービスエリアに車を止め、トイレに駆け込み、無事に用を足し終えたときのあの安心感。紅潮していた（または青ざめていた）自分の顔が、今まさに、普段の気色に戻っていつているのである。その瞬間を実感できた時の、喜びにも似たあの充足感。少なくとも一度や二度、同じような経験をお持ちの方は多いはずです。

さて……。そんな時、「今、自分が向いて用を足しているのはどの方角か」考えたことのある方は？ おそらく、ほとんどいらつしやらないでしょう。仮に考える余裕があつて、それが西向きであると気付いたとします。お浄土の方角だからと、下ろしかけたジッパーを

元に戻してクルマに引き返す勇気と忍耐を振り絞れるでしょうか？

しかし、です。冒頭の文の通り、確かに法然上人は「しと（＝小便）はこの時西に向こうべからず、又西をうしろにすべからず（西にむかつては用を足しなざるな、お尻を向けるようなこともしなざるな）」とはつきり戒めていらつしやいます。西は私たちのふるさと、阿弥陀さまのいらつしやるお浄土の、言わば聖なる方角ですから、粗相すべからざること、まったく上人の仰せの通りです。

「法然上人がそんな無理なことをおっしゃるなんて…」。

さあ、困ったことになりました。私もそこまで意識して用を足したことは未だかつてありませんし、そういえば、ウチのお手洗いは真西の方角にあります。今更改築するのも不可能ですし…。

私たちはいつでもどこでも西を向いていられると、上人は考えたかったのでしょうか。いいえ、そんなはずはありません。日常生活

において、何をするにも無条件に西を向いていられるなんてほとんどないことなど、充分に承知されていたに違いありません。ならば、どうしてわざわざ「西に向かって用を足すな、お尻を向けるな」といった無理なことをおっしゃるのでしょうか。

「もしゆゆしく便宜あしき事ありて（どうしても仕方なく）」とした上で、上人のお言葉が続きます。

「——西をうしろにする事あらば、心のうちにわがうしろは西なり、阿弥陀ほとけのおわします方なり。ただ今あしざまにて向わねども、心をだにも西方へやりつれば、そぞろに西に向かわで、極樂をおもわぬ人にくらぶれば、それにまさるなり」。

西の方角に対して無礼せざるを得ない状況の時には「そちらは阿弥陀さまのいらっしゃる方角である」と思うように、ということです。それにはいつも阿弥陀さまを念じるよう心掛けていなければ出来る

ことではありません。日ごろ私は、阿弥陀さまに対する思いをどれほど心に抱いているか、どれほどその御名をお称えしているか。一見理不尽とも受け取れるこの御言葉には、私たちに、まさにそのことを気づかしめたいという、上人の願いが込められていたかもしれません。それには「もしゆゆしく便宜あしき事ありて」の重みを十分にかみしめる必要がありそうです。

京の都から東国へ下る際、お尻を西に向けないよう、後ろ向きに馬に乗って来たという熊谷入道直実の、弥陀一仏への、その名の通り真つ直ぐで真実なる心に思いを馳せないわけにはまいりません。

(浄土宗総合研究所研究員・太田正孝)

表紙は語る

野草花ごよみ

10月

・
ミヅソバ
(タデ科)

田んぼの溝等水分の多い所に群生する。群生の写真ももちろんあるが、今回は花の美しさを強調したクローズアップの写真にしてみた。花卉のように見えるのはがく片で、花卉はない。名は、ミゾは生育場所、ソバは同じタデ科のソバと葉の形が似ることによる。

撮影場所 埼玉県浦和市



もうひと花

イボクサ (ツユクサ科)

田んぼの溝等に群生する。小さい、きわめて繊細な感じの花を咲かせる。名の由来は不明で、この草の汁をいぼにつけても、いぼがとれるわけでもないそうである。

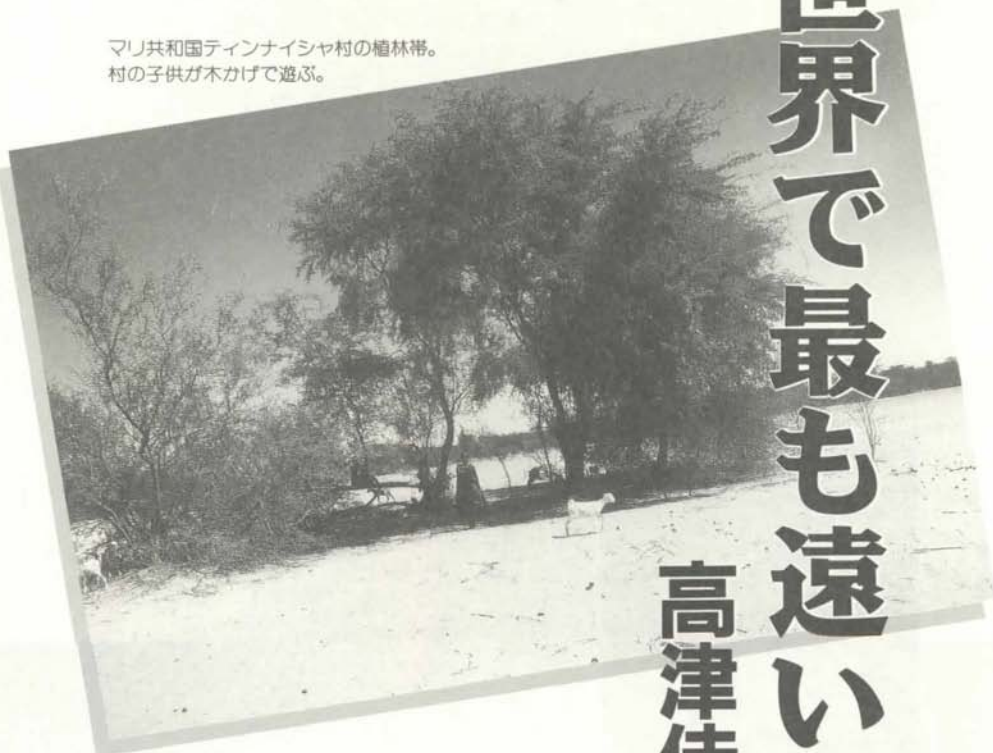
撮影場所 埼玉県浦和市

表紙Photo/Report
石井敏之

MALI

外国で
生活して
⑬

マリ共和国ティンナイシャ村の植林帯。
村の子供が木かげで遊ぶ。



世界で最も遠い町

高津佳史

トンブクトウ

今年5月、乾季の終りに当たる最も暑い時期、私は6年振りに西アフリカのマリ共和国を訪問した。首都のバマコも蒸し暑かったが、目的地である砂漠の町トンブクトウでは連日45度の熱波に見舞われ、昼寝もできないほどの暑さであった。

マリの公用語・フランス語ではトンブクトウ、英語読みではティンブクトゥと呼ばれる町以前、遠い所の代名詞としてこの町の名を使うと聞かされ、さっそく学生時代の英語辞書を開いたことがあった。確かにティンブクトゥ(Timbuktu)・・「遠い所、遠隔地」という説明が「マリ中部の都市名」という記述と共に載せられていた。大判の辞書で調べみると、from here to Timbuktu(意味……ここから遠いところへ)という用例も出てきた。恐らく、長い間ヨーロッパから最も遠い町、地の果てとして

認識されていたからであろう。

この町は、遠くギニア湾岸の黒人王国(現在のガーナ、ギニア等)から運ばれてきた黄金が、サハラ奥地の塩坑・タウデニに産する岩塩と取り引きされる交易の中心地として長い間繁栄し、「黄金がニンジンのように生える町」として、遠くヨーロッパ世界にもその名を知られることとなるのである。交易都市トンブクトウは、北のアラブ世界と南の黒人世界が接する場所であり、サバンナの文化と熱帯雨林の文化との交点に当たっていたのである。しかし、現在私たちが目にするトンブクトウは、赤茶色の砂埃に埋もれてしまっている。周囲から押し寄せる砂丘に町じゅうが取り囲まれ、泥レンガの家並みが続く殺風景な田舎町に過ぎなくなってしまう。

今回私は、民族対立の激化に伴う治安の悪化によって1994年以来中断を余儀無くされている、サヘルの会の植林プロジェクトを調査するためマリ共和国を訪れたのである。

この国は、アフリカ北部を横断するサハラ砂漠の南縁部、「サヘル」(アラビア語で岸辺の意)と呼ばれる地域に位置しており、国土の3分の2が砂漠に覆われた内陸国である。サヘル諸国の例にもれず、近年の度重なる干ばつと不安定な政情や増加を続ける人口の影響で、深刻な砂漠化、土壌(耕地)劣化、生活基盤の喪失といった問題に直面している国でもある。

マリの首都バマコからトンブクトウ州のプロジェクト地までは、日本製の4輪駆動車を使っても2日がかりの旅である。モータニアとの国境付近は、道と呼べるようなものもほとんど無く、土漠の中にかすれた轍が何本か通っているだけといった箇所が続いている。一度など、私の乗った車が原野で立ち往生し、たまたま乗り合わせたモール(アラブ)人と2人、星明かりを頼りに夜道を5時間近くも歩いて、ようやく井戸にたどり付いたこともあった。その時同行したモール人は、腰に護

身用と称して50センチ以上もある刀をぶら下げていたのだが、井戸を目指して土漠の中を2人で歩いていると、本当に「遠い所」に來たのだと実感させられた。

湖岸の村

サヘルの会は、このマリ共和国北部の村で1988年から植林と農業を主体とした協力活動を実施してきた。拠点をトアレグ族の人々が暮らすティンナイシャ村に置き、村人とまったく同じ生活を送りながら、植林用苗畑・菜園の開設、植林帯の設置といった活動を開始した。

共に暮らすこととなったトアレグの人々は、主に遊牧民であり、国境を越えてマリ、ニジエールの中・北部、アルジェリア南部といった半砂漠地帯に広く分散して生活している部族である。乾燥地に暮らすため、干ばつの影響を受けやすく、70年代以降の大規模な干ばつ時には、財産である家畜を失った人々が、

トンプフトゥ郊外のトアレグ・キャンプにて。

ラクダにエサを与える男。(彼はサヘルの会の元スタッフだった)



次々とニジェール河流域に南下し、難民化していったことが知られている。私たちが拠点としたティンナイシャ村も、こうした難民キャンプとしての歴史を持つ村であった。

この村はファギビンヌ湖という湖の岸辺に位置し、かつては米作や漁業の盛んな豊かな村であった。しかし、流入するニジェール河の水量が減少傾向にあるため、近年は湖の3分の2近くが干上がり、灰青色をした湖底の粘土が地上に現れている。湖岸に堆積した真っ白な砂の中には、貝殻や魚の骨、釣針、小船の残骸が散らばり、周囲の砂丘群と奇妙な対照を成していた。地元では約15年周期で満水・渇水を繰り返す水系(湖)ともいわれていたことから、目の前に干上がった湖底をさらす湖は、進行する砂漠化の象徴なのか、それともニジェール河・ファギビンヌ水系の長期的変動の一部に過ぎないのか、考えさせられる景色であった。

トアレグの人々

トアレグ族は、アラブ人と同様に黒い髪と褐色の肌を持った人々で、民族区分によるとベルベル系とされる民族である。起源的には北アフリカ・アトラス山脈に住む人々（ベルベル人）と同じであると考えられている。誇り高い戦士であり、フランスがニジェール河流域を植民地化した時には、最後までゲリラ戦術で抵抗を試みたことでも知られている。しかし、ブラック・アフリカに分類されるマリ国内では少数派であり、トアレグ民族の自治と独立を求める声がここ数年の武力を用いた民族戦争へと発展していったのである。

活動開始当初、村はずれに村人風のテントを建て住居とした私たちは、苗木を育て始めると同時にトアレグ族の言葉（タマシエク語と呼ばれる）を覚えなければならなかった。村には小学校があるため、教師や村長、村の顔役たちは公用語のフランス語で会話できる

が、一般の村人には通じない。ワーカーとの作業を通じて、メモを取りながら、少しずつ言葉を覚えていった。遊牧民だけに家畜に関する言葉が豊富なことは予想がついたが、意外にも樹木や植物についての語彙が豊かで、生育する植物の識別（同定）も正確に成されていた。村人はこうした植物の特徴・用途に関する知識を背景に、家畜の餌はもちろん、テントのフレームやラクダの鞍、食器、農具等様々な生活用品を自給していたのである。

また、これはイスラム圏に共通することであらうが、男性ならモハメッド、女性ならフアティマと呼んでおけば間違いないというくらい、モハメッドやコーランに関連した名前が多く、不慣れな私たちを混乱させた。一般に「姓」に当たるものは用いられず、モハメッド・アグ・モーサ（モーサの息子のモハメッド）といった具合に、個人名の後に父親名が付くのが普通であった。しかし、モハメッドもモーサも共に予言者名なので、同性？同

名の人があちこち居るわけである。

砂の上の生活

植林活動を進める上で最も障害となったのは、日本人と村の人々との自然環境に対するとらえ方の差であった。

砂の上で家畜と共に一生を送るトアレグの人々にとって、砂丘の間にアカシアの灌木が茂り、ラクダが餌を食む風景は日常のものである。私たちが「今、木を植えないと砂漠が広がり取り返しかつかなくなるぞ」と話しても、「木なら今でも十分ある」、「薪や家畜の餌がたりないなら、移動すれば済む」といった具合である。また「村の周囲に木や草が増えると、ヘビや虫の住み家となって困る」と考える人も多かった。

私たちも始めは聞き流していたが、学校・診療所などレンガ造りの立派な建物が吹き寄せる砂に埋もれているのを見ると、周囲に砂が積もれば家（テント）の方を移動するとい

うトアレグ流の方法が最も機能的な生活かも知れないと思えるようになった。同様に、風通しの良い砂丘上に住むことは、マラリアや風土病を媒介する昆虫類（カ、アブ）を避けるためであることも分かってきた。

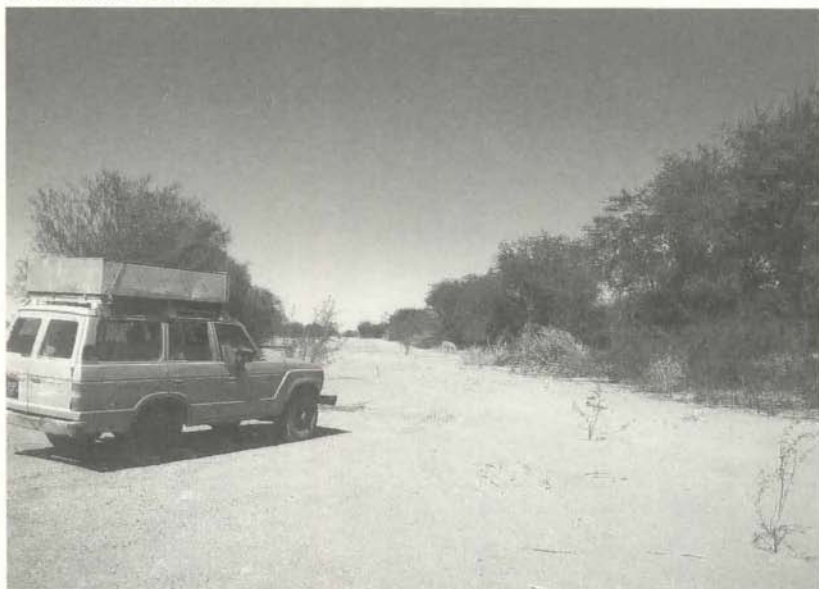
村での生活を通して、逆に日本人の側が彼らの自然と共生するシンプルな暮らしに影響を受け、我々の考える砂漠化とは何か？、トアレグの人々がこの地で生活を続けるためにはどうすれば良いか？といった問題を考え直すきっかけとなった。

サハラの手辺に育った森

6年振りのプロジェクト地は、濃緑色の森に変わっていた。初め日本人が植え、後にマリ人スタッフが引き継いだ植林帯は、立派に成長し、延長2キロ以上・幅500メートルの緑地帯になっていた。高い箇所では7メートル近くに成長した木々は、あちこちで開花・結実しており、林床には降雨時に自然発芽



マリ共和国ティンナイシャ村の植林帯。
7 mまでに成長していた。



したと考えられる実生苗も散見された。

民族紛争の結果、政府軍の迫害を恐れて国内・外に避難していた人々が、国連の援助を受けて故郷に帰還し始めていた。人々は、この植林帯の北側に村の位置を移し、新たな生活を始めていた。一時は廃村と化した村に、NGOの援助で井戸が掘られ、小学校もムシロ囲いの中で授業を再開していた。元々、移動を主体とした生活を送ってきた人々だけに、モリタニアからマリまでの旅など我々が考えるほど大仕事ではないのだろうが、この村人の再生力の強さには感心させられた。帰郷した彼等は以前の村の場所を避け、建築資材が手近にある（生えている）植林帯の北側を落ち着き先に選んでいた。井戸にも近く、条件の良い場所だが、こうして植林帯のそばに村が移動してくるなど、木を植えた私たちにも全く予想外のことであった。苦勞して植えたアカシアが柱に切られていくのは惜しい気もするが、村が最も苦しい時期に人々の役に

立っていることを考えると十分に納得のいく結末と言えるだろう。

今回のティンナイシャ村訪問では、元スタッフの家に世話になり、食事もちょうじになった。昼食後、お茶を飲んで一服する皆を残して、日中の最も暑い時間帯、村の背後に連なる砂丘に登ってみた。真っ白な砂丘上には、テントや小屋の群れが無秩序に並び、砂丘の先には、鮮やかな緑の植林帯が一直線に続いている。白砂と木々の緑の強烈なコントラスト。マリから帰国して数か月経つが、未だにこの時の光景が忘れられない。



プロフィール

高津 佳史（こうづ よしふみ）

1961年兵庫県伊丹市生まれ。島根大学農学部卒。1985年から2年半、青年海外協力隊員として西アフリカのニジェール共和国に滞在。また88年から2年間は、サヘルの会スタッフとしてマリ共和国で活動する。

95年より、サヘルの会東京事務局に勤務。

サヘルの会

1987年に設立された民間団体(NGO)。「サヘル地域の砂漠化防止と地域住民の生活の安定化」を目標に活動続ける。現在は、マリ共和国中部のモプチ州で植林用苗畑・菜園の開設、井戸の掘削、フルベ語による識字教育等を行っている。会員数は約580名。会では、サヘル地域との交流に興味を持つボランティア、会員を募集中。

連絡先：03-3460-3912（事務局まで）

自分が欲しいモノ、こうあって欲しいと願うコト。数え上げれば切りがありません。他人よりもいいモノを持ちたい、大きな家に住みたい……。まあ確かに悪いモノよりいいモノ、手狭な家よりは広くて大きな家の方がいいかもしれません。

あれも欲しいし、これも欲しい。それを実現させるために、あの手この手を尽くして一所懸命。じゃあ、あれが手に入ったら満足か、これが自分の思う通りになったらもう十分か、幸せか？ 違うんですね、これが。次から次に、欲しいモノ、欲望は増える一方です。

人間である以上、欲望や願いはあって当然でしょうけど、どうもそれらの実現そのものが、

若和尚の

十八 其はいいトットヨチ

充足感をもちたしてくれるとは必ずしも言い切れないばかりか、むしろ、余計に悩みの種を増やしさえします。

「足るを知る人は地面に寝るような境遇であつても幸せな人であり、足ることを知らない人は天人の住む世界の宮殿のような立派なところに住んでも満足できない。足ることを知らない人はいかに財産があつても心は貧しいものだ」(仏遺教経)

人間の幸福なんていうものは全く抽象的な概念であり、一定の物差しをもって「ここまでは不幸、ここからは幸福」などと客観的に計れるものではありません。基準となるべき点はその人その人によってまちまちなんです。だから難しいんです。

でも、充足感を抱きつつ生きる方が、そうでない生き方よりもどれだけ幸せであるかわかりません。それには、自身の中でその基準点をどこにおくかがポイントであり、分かれ目です。

——お釈迦さまの先ほどの御言葉には、私たちにそれを気づかしめようという思いが込められているに違いありません。

向上心と欲望とは似て非なるものです。足ることを知り、感謝の思いを忘れずに暮らす。これに気づいた人には、きつと新鮮で揚々とした日々が待ち受けていることでしょう。

「わたしにとつての幸せ、本当の裕福」。秋の夜長にこんなことを考えてみるのもいいのではないのでしょうか？ (正)

大室了皓師が答える

読者からの仏教相談

重度障害の息子をもった母親
夫も荒れだし、一家心中も……



前略 突然こんな便りをさせていただき恐縮に存じます。ただ、もう、どうしていいかわからないのです。毎晩、床についても、頭の中にいろいろな心配事が浮かんで眠ることもできません。ノイローゼになってしまうのではないか、分裂症になってしまうのではないか、それも心配です。

聞いてください。そして、私を助けてください。

私は三十五歳、夫も三十五歳。七歳の息子と、四歳の重度障害をもった息子がいます。心配は、子供の将来を思つて自棄になっている夫と、その子の将来です。

夫は、障害をもった子が生まれた時、泣き悲しんでいる私に、支え会い、助け合つて、この子を育てていくこう、と言ってくれました。しかし、日が経ち、時が過ぎて、子供が大きくなり、その症状がはつきりと出てくるにつれて、その重荷に耐えかねるのか、口数が少なくなり、暗い表情になってきました。そし

て半年前くらいでしょうか、上の子が学校で弟の障害のことを言われ、いじめられた、ということを知ってからというもの、一気に酒の量が増え、三月前にはどうとう、「こんな子を生んだお前が悪いんだ」と、私に殴る蹴るの暴力をふるうようになったのです。それはいまでも続いています。そして一週間前からは仕事も休んで飲みつづけています。

夫の苦しさはよくわかります。私も苦しめてたまりません。将来を考えれば考えるほど、暗い気持ちになってしまいます。どこに救いがあるのでしょうか。神さま仏さまは私たちを見ていないのでしょうか。

夫がお酒を飲みだすと、私は子供たちを連れて外にでます。そして星空を仰いでただ涙するばかり。

いつそのこと一家心中でもと考えてしまいます。



貴方と同じように、障害児を持った方がいました。

無事な誕生を喜んだのもつかの間、六か月ほど経った頃、他の赤ちゃん比べて様子がおかしいことに気付き、病院へ連れていきました。

診断の結果を聞いて、目の前が真っ暗になりました。

「残念ですが、治療の見込みはありません」
医師から悲痛な声で伝えられたのでした。
まさかと思いい他の病院へも行きましたが、同じような診断でした。

待ちに待った初めての赤ちゃん。知人はみんな健全な子に恵まれているのに、どうして私たちの子だけが、これからどうしたら良いか、ご夫婦は暗澹となりました。

奇跡を願って、神仏へ祈りました。

残念ながら一年して、お誕生日を迎えるようになり、体は大きくなってきたのに、手足を自由に動かすことも、寝返りをするこ

出来ないばかりか、口の動きも、顔の表情もままにならない、植物人間にも似た状態でした。

友達の赤ちゃんは、ハイハイを始めてからお膳につかまって「ウマウマ……」言い、名前を呼べば、ニツコリ笑顔を見せたりするのを目にすると、なおさら悩みを深くするの

でした。
将来のことを考えると、夫婦の心は落ち込むばかりでした。

ただ貴方と違うところは、ご主人も母親である奥さんと一緒になって共に悩んでくれたことでした。

その点では、幸せな人だと言えるかも知れません。

二人で何日も話し合った結果、遂に一家心中を考えるようになってしまいました。

せめて亡き両親のお墓参りをしてから、ということになり、赤ちゃんをつれてお寺にやってきました。

応対に出た住職さんは、二人の様子が通常とは違うので、それとなく尋ねました。

事情を知った住職さんは、懇々と語りました。

その要旨は、

「子供は授かりもの、と昔から言われているが、授かったものなら、

『お前にあげよう』と言われて、私が頂いた私のものということになる。従ってその子供は私のものである、と。

しかし仏様の教えでは、子供は仏様からお預かりしたものだと言う。

それに従えば、

『このような子供だが、お前たち夫婦ならきつと面倒をみて貰えると思うから、引き受けて欲しい。頼む』

と仏様が貴方たち二人を選んで、赤ちゃんを預けて下さったのだ。

だから、この子の面倒をみるということは、この子の陰におられる仏様のお世話をするこ

となのだ。

聞けば不治の障害児とのこと。

ご心労のほどはとてもお察し出来ないけれど、心を込めて大事にお世話をなされれば、仏様が貴方がたを守って、先々のことは必ず良いようにして下さいというのが私の信念だ」

二人は目から鱗が落ちたような心地がして、一家心中の考えは消え去り、仏を拝む心でこの子の面倒をみるようになりました。

法句経には、

「これはわが子、これはわが財宝と考えて、愚かな者は苦しむ。己さえ己のものでないのに、どうして子と財宝とが己のものであろうか」

また六方礼経では、

「一つとして、わがものというものはない。全てはみな因縁によつて、自分に来たものであり、暫く預かっているだけのことである。だから、一つのものでも、大切にして粗末にしてはならない」

と説かれています。

この経の「因縁」の言葉を私は「仏」と置き換えて受け取っています。ですから「全てのものは仏から暫く預かっているものだから、一つのもので決して粗末にしてはならない」という教えだと思っています。

障害者だからこそ私たちにお預けになった。またある人には、成績の悪い子だからこそ私にお預けになった。

と思つて大事にしない、と言うのが仏様の教えなのです。

ですから、子供の成績が悪いからと言つてその子を咎め苛めたとしたら、「成績の悪い子だから預かつてほしい」と頼まれた仏様に対する暴言であり、また仏様を罵ることになるのではなからうか、ですからどうぞ成績のことはしばらく置いて越しんでお育てなさい、とそういう親御さんには話しています。

障害を持つお子さんの場合は比較にならないほど深刻なことと思いますが、このように

お考えを転換し、越しみの心で面倒を見て差しあげて頂くことが出来たらと存じます。

仏様はそういう貴方がらの姿をご覧になつて、必ず守つて下さると固く信じています。

そのように思つて預けるなら、神も仏もないというお考えは、却つて貴方がたを奈落のどん底に落とすものだとお気づきになることだと思います。

ただ貴方がこのことをお分かり頂けても、ご主人は果たしてどうなさるかということが心配です。

私のお答が、ご主人にはお分かり頂けなかつたら、貴方には辛い事と思いますが、貴方だけでもひたすらお子様を越しんで下さい。

そしてご主人にも同じように越しみの心で接して頂ければと願っています。

その貴方の尊い姿に、何時かご主人の心が動く日が来る、仏様がそうして下さると希望を持って、きょうの一日をお過ごし下さい。

何かめんどくさい仕事をしなければならぬとき私達はつい、億劫へおっくうだなあと言ってしまう。この「億劫がる」という表現の億劫は、本来「おくこう」と読むのが正しくて、それが転化して、「おっくう」とか「おっくう」とかと言われているようになったようです。

この言葉も仏教から出た言葉で、百千万億劫の略といわれています。

劫（こ）は、梵語カルパの音訳で、きわめて長い時間の単位。

位をさす言葉です。それはどの位の時間かといいますと、ある經典では、「四方上一由旬（ゆじゆん）一由旬は牛車一日の行程の距離で、約十四・四キロ」の鉄城に芥子を満たし、百年ごとに一つずつ芥子を取り去って、その芥子全部を尽くしても劫は終らない」とあり、またある經典では、「四方一由旬の大磐石を百年に一度ずつ白氈で払って、その石がなくなっても劫は終らない」とあります。いずれにしても、劫がいかに

億劫

おっくう

長い時間であることを示す比喩でしょう。となりますと、一劫がこうなのですから、百千万億劫などという時間は、実に天文学的といえますか、想像のつかない時間といえます。

何かめんどくさいことをやらねばならないとき、私達はまず大変な時間がかかるだろうと考えて、つい「億劫」と言うのでしょうか。

京都一千年の歴史に

育まれた巧みの技

京仏壇・佛具は当店に!!

☎六一五 京都市右京区

西京極南衣手町七四

(株) 島津法衣佛具店

☎〇七五—三一四—七七六八

FAX 〇七五—三一五—三七五三

続

午後の日差しの中で

ゴリラに思う

吉川英明



世の中、相変わらず嫌なニュースには事欠かないが、中でも腹立たしいのは、母親がパチンコに熱中している間に、放置されていた子供が死んだという事件である。

同じような事件は何年か前にもあって、ついにこんな人間とも思えない母親が出現したかと世間を嘆かせたことだったが、あろうことか、今年は夏前からこの種のニュースが何件か相次いだ。

これは男である私の推測なのだが、本来、母親の子供に対する愛情は、父親のそれに比べて、直截的で本能的な面が強いのではないかと思う。

父親にとつては、明白に別の固体である子供という存在が、母親にとつては、誕生によって切り離された自分の肉体の一部なのだ。それ故息子や娘の痛みや苦しみは、自分のものとして直接感じるのではなからうか。

題名もストーリーも忘れたが、ずっと若いころに見た映画の中の一齣で、強烈に印象に残っているシーンがある。ハリウッド製の史

劇なのだが、こういう場面である。

場所は確かエジプトの宮殿。王妃が幼い王子の部屋に入って行くと、どこから入り込んだのか、部屋の隅で巨大なコブラが鎌首をもたげ、無心に遊んでいる王子にまさに飛び掛かろうとしているところだった。

王妃は一瞬立ちすくむが、次の瞬間ためらうことなくコブラの上に自らの身を投げる。コブラに噛まれた王妃の悲鳴に側近たちが駆けつけ、王子の命は救われる……というシーンだ。

この映画を見たとき、私はまだ独身だったが、このシーンにはいたく打たれた。

映画の中のお話さと言ってしまえばそれまでだが、現実には母親の愛というものはかくの如く勁いものなのだ。このような例は、古代から実話として数多くあるに違いない……そう思った。

だから、冒頭に触れたような母親の記事を読むと、怒りより先に何故なのだろうという疑問が頭をもたげて啞然としてしまう。

愛情がないのだろうか。愛情はあっても、

しばらくの間なら放っておいても大丈夫さと高を括ってしまうのだろうか。そして忘れてしまうのだろうか。

いやいや、本当に愛があるなら、幼い子供を相手に高を括ったり忘れたりはしないものだ。

やはり、母親として、いやその前に人間として、根本的な欠陥があるのだとは思えない。

そんなことを考えていた矢先、驚くような記事が新聞に載った。幸い、こっちは明るい話だ。

アメリカ、イリノイ州シカゴ郊外の動物園で、ゴリラの檻の中に転落した三歳の男の子が、中にいた雌のゴリラに救われたというのである。

記事によると、男の子は、檻の柵に登ろうとして檻の中に落ち、五・五メートル下のコンクリートに頭を打って気絶した。

それを見た『ビンディ』という名前の雌の

ゴリラが駆け寄って男の子を胸に抱き上げ、他のゴリラが近づかないように庇いながら、飼育係のいる扉まで運んだという。

ここまでの話だけでも、やっぱり、ゴリラというのは一番人間に近い利口な動物なのだなと感心したが、記事のその先を読んで更に唸った。

ビンディは、人間に育てられたゴリラで、この動物園では、ビンディが一年半前に出産した時、ぬいぐるみを使って、母親教育をしていたというのだ。

つまりビンディは、たまたま檻の上から落ちてきた見馴れぬ動物をみつけて、日ごろ世話をしてくれる職員のとこに運んだのではなく、倒れている幼児を救わなければいけないという自分の立場をはっきりと意識して行動したのだ。以前教えられた母親の役割を立派に果たしたのである。

パチンコ屋にいた母親に聞かせてやりたい話ではないか。

冒頭に、人間とも思えない母親、と書いた



が、それではゴリラに失礼だ。これからはゴリラにも劣るとでも書かなければならなかった。一部の人間の母親が、子への本能的な愛すら失ってしまっているのだとしたら、そのうちこの動物園のように、ぬいぐるみを使った母親教育も必要になるのではないかと心配だ。

ゴリラに救われた男の子は、落ちた時頭で大怪我をして入院したが、間もなく退院して元気だという。

このニュース、アメリカではテレビでも放映されて大変な話題になったらしいが、暗い話や、腹立たしいことばかり多い人間の社会に、久々に明るい話題をもたらしたのがゴリラだというのが、何とも皮肉で妙な気がしたものだった。

一週間ほど経って、更に愉快な後日談が新聞に載った。

アメリカにある映画「ターザン」の愛好家団体が、ビンデイを表彰することに決めたというニュースだ。

「ターザン」の物語では、ジャングルに倒れていた孤児ターザンがゴリラに救われ、ジャングルの王として育っていくのだが、そのターザンを救って育てた「カラ」というゴリラにちなんだ賞を贈るのだという。

架空の物語「ターザン」の愛好家団体があるというのも面白いが、その団体が大仰にゴリラを表彰するというのが、いかにもアメリカらしくて愉快である。表彰式で、ゴリラがどんな顔をして賞をもらうのだろうと想像するだけでこちらの気分も明るくなる。

話は逸れたが、日本人も、もう少し、こうした洒落た遊び心を彼らから学んだほうがいい。

私のように少々古いと言われる男にとっても、日本の社会はどうにも窮屈で、万事が鹿^{つめ}爪らしい。

表彰式一つ取ってみてもそうである。どこへ行っても、同じ形式で格式張っている。

表彰する側の代表挨拶、賞状授与、受賞者挨拶……表彰状の大きさ、デザイン、文言ま

ではほとんど変わらない。

そして、日本人の野暮なところは、例えばゴリラを表彰しようとする時にさえ、こうした鹿爪らしい形式の中に収めようとするものだ。だから、時々、途方もなくちぐはぐなことが起こる。

もう何年も前のことになるが、我が国初の有料の衛星放送「WOWOW」が、本放送を開始するにあたって、直前何週間かテレビで派手な宣伝放送を続けたことがあった。

映画、音楽、スポーツと、世界中から最新の娯楽を届けるという触れ込みで、若者向けの洒落た映像が、連日予告編として流された。私も、どんな放送が始まるのかと興味を持って本放送開始の日には、オープニングセレモニーがあるという時間にテレビのスイッチを入れた。

放送が始まって驚いた。

真っ先に映しだされたのは社長の挨拶だった。ダークスーツにネクタイ姿の社長が机に座り、NHKの政見放送よろしく、にこりと

もしないで。

「皆様、本日は……」

とやりだしたのである。

連日のスポットを見て、イメージしていた新しい衛星放送「WOWOW」とは、チャンネルを間違えたのかと思うほど異質な画像だった。

私は、馬鹿にされたような気がしてテレビを消した。恐らく、あれを見ていた大多数の人達がスイッチを切るかチャンネルを回してしまったに違いない。「WOWOW」は、その後契約者が思うように伸びずに経営に苦しんだが、あの瞬間に何万人という視聴者を失ったに違いないと私は思っている。

どうしてもっと砕けた楽しいオープニングを考えられないのだろうか……ま、日本人の形式主義、権威主義がなくなるのは、来世紀も半ばごろまでかかるだろう。

権威とか形式とか、そんな物を意識しない世界がどんなに素晴らしいか……ある大学のゴルフ部の監督に、以前聞いた話を思い出し

た。

その大学のゴルフ部が、冬の合宿をニュージラランドでやることになった。監督は合宿を受け入れてくれるというゴルフクラブの理事長と手紙やFAXで数回連絡を取った後、単身下見にクラブを訪れた。

クラブに着いたのは早朝で、まだ誰も出勤している様子はなかったが、素晴らしく美しいコースを背景にしたクラブハウスの玄関の前で、年配の女性が一人、箒をもって道を掃いていた。

「日本から、理事長にお目に掛かりに来たのですが……」

監督が声を掛けると、その女性が、

「お待ちしてましたよ、Mさん……私が理事長です」

と、にっこり微笑んで両手を広げたという。

監督は一瞬仰天して言葉を失ったが、その飾り気のない姿と自分のクラブを愛する心には、痺れるほど感激したという。

日本のゴルフクラブには、こういう理事長、

いや、メンバーすら一人もない。私も含めての話だが、朝、ゴルフ場の玄関を掃くなど、格好が悪いという気持ち心がのどこにあるからだ。

ところが、お盆休みが終わった軽井沢のこと。早朝、東京へ帰ろうと車を走らせていたら、身なりのいい初老の女性が、大きなビニール袋を片手に持って、観光客の捨てていった舗道のごみや空き缶を拾っているのに出会った。

まだ人通りのない大通りで、射しはじめたばかりの朝日を斜めに浴びながら、一人黙々とごみを集める女性の姿に、私は監督に聞いた女性理事長の姿を重ね合わせていた。

そして、日本にも素晴らしいおばさんがいるんだなと思った。

(了)

想 随 篇 掌

寅さんが亡くなった。鎌倉の映画村や柴又で行われた追悼会には、寅さんファンなど数万の人が参列したと新聞が報じていた。

たしかに、「男はつらいよ」で見る寅さんは、面白く、その人間性に、新聞などに評されているように、忘れかけている日本人のこころがあるように思う。それが人々に愛され、四十数作も続いた原因だろう。

追悼会で、涙を流す多くのファンの姿がテレビに映し出されていたが、それを見ながら腹が立ってきた。もちろん、寅さんの死を悲しむ人たちに対してではない。

寅さんのような人間を愛することができのに、なぜ現実のこの世には「いじめ」があるのだろう、と。いじめは個々人の人間性、個性を認めず、尊重しないところから生まれてくる。考えてほしい。もし、寅さんのような人が自分の家族にいたら、あなたならどうするかを。映画の中の家族のようにできる

③ しろに減加いい

だろうか。寅さんの生き方は、今の世の中では異なるものである。それを認め、あの家族のように優しく接しられるか。

認めているからこそ、いや認めてやりたいからこそ、寅さんが愛されていたのだと思いたい。と、そんな気持ちになつていたら、0・157の患者さんや家族に対する「いじめ」が広がっているという新聞記事が目に入った。「いいかげんにしろ、このばかたれが」、また、叫んでしまった。

(順)

吉野法衣店

各大本山御用達浄土宗袈裟法衣専門



〒160 東京都新宿区南元町17
TEL 03-3355-2168
振替 東京21176372

特別エッセイ

俳句は文学でない

大畑 等

ハママデハ アマモミノキル シグレカナ

NHKラジオ深夜便で、山科一燈園の石川氏の話にでてきた俳句である。太平洋戦争が始まったころ、石川氏の学校の先生が「この戦争は間違っている。しかし私達はどうすることもできなくて、歴史の運命に従わなければならぬ。江戸時代の俳句に、ハママデハ アマモミノキル シグレカナという俳句があるが、いま、私達は耐えなければならぬ。命を大切にするように。」とクラスの青年に言った、と言う。その後再びその先生は教壇に立つことはなかった、と言うのである。

さて、私はこの話のなかの俳句の作者が誰であるかを調べる資料もないが、実は誰でも良かったように思う。大家だから、手だれだから作ることができると言う句でもない、また誰にでも作ることができるが、そうやすやすと、この手の俳句を作ることができるもの

ではない、と思ったからだ。そしてラジオで聴きとった音をここに書いてみると

濱までは海女も養着る時雨哉

となるのであろうが、この話のなかでこの俳句は実にリアルである、と思う。

しかし江戸時代の句を収めている句集にこの句があったとして、私は何百の句の中からこの句だけを特別に抜き出すことはないであろう。たぶん、いやきつと、私が好んだ二割程度の句のなかの一つとして〇をくれていただけだと思うのだ。俳句とは、そうそう劇的なものでもない。

もちろん江戸時代のこの作者はなにかの暗喩でこの俳句を作ったのではないが、芭蕉の「行春や鳥啼魚の目は泪」のような言葉に対してロマンチズムを重ねているのでもない。この句が示すこと以上にイメージや意味を与える事ができないし、たとえ与えたとしても

通俗に墮することとなるであろう。海という絶対の運命が待ち受けているのに、瞬時でも濡れるのを避けること。養と時雨が「物質的に」在るだけなのだ。すべてが眼前に在るのだ。「海女」の身体を超えて「濱」や「時雨」が在るのではない。「濱」も「海女」も「時雨」もただあるのだ。この俳句に即して言えば、「修辭的」に在るのではなく「物質的」に在るのだ。このような俳句を前にすると、「写生」や「花鳥風詠」、「写生を基礎にした主観の表出」や「写生構成」などの明治以降の俳句の方法論(?)もむなしく感じてくる。

「俳句は文学ではない」と言った石田波郷はその意味を次のように言う。

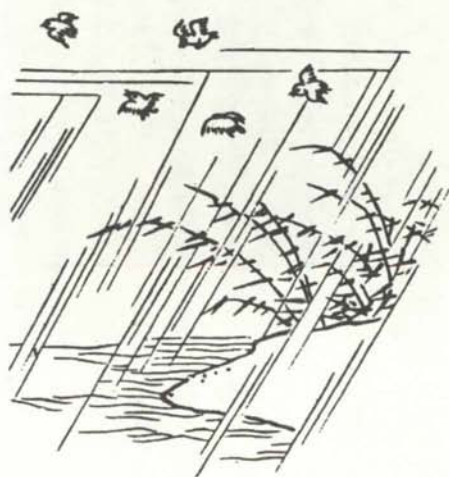
僕はその頃、これは自分は、俳句でないものの断片を磨きあげてゐるのだと思った。文学の毒を解かねばならぬと思った。(略)俳句は境涯を詠ふものである。境涯とは何も悲劇的情緒の世界や隠遁の道ではない。又愛別離

苦の詠嘆でもない。すてにある文学的劇的なものではなくて、日常の現実生活に徹しなくてはならない。小説戯曲、詩それら一聯の文学は、創作である。ひとり俳句のみが創作、作爲構成その他類似のそいふ言葉の概念をすべてとらない。

(略)

「鶴」昭和十七年十一月号 「俳句」

このことを波郷は「俳句には身体を投げ出してやりさへすればいいのだ」とも言う。しかし、ことは簡単ではない。波郷の言う「文学の毒」とは今日的に解釈すると、「物語の毒」と捉えることができる。私達が何かについて書く、または思考する。そのことに於いて、私達は自由に為し得ているのだろうか？という壁にぶちあたる。常に過去そして現在の「物語」のなかで、書かされているのではなからうか、という壁である。例えば、新聞の三面記事が解るといことは現在の「物語」のなかに、その記事が収められているからであつて、そこからはみ出たものは、「狂気」へと追



放してしまふ。さらに今日では「狂気」さえも「物語」化させて、私達は安心するのである。波郷の「文学の毒」は文学だけの問題ではなく「物語」は社会の隅々まで浸透しているのだ。戦時下に於いてもまた同じで、当時の重圧（例えば、新興俳句への弾圧、文学報国会の結成など）に対して、常に核心をずらしていった波郷の俳論は象徴的だ。「高々と時局の要望する国民俳句を詠ひ」と言っただけで

自分の言ひたいことは一つ。

「短い散文で何が言えるか」

である。十七文字は字数ではないのである。

と結ぶ。暗に時局の要望は俳句には入りきれないのだ、と言っているのではないか。

濱までは海女も衰着る時雨哉

この句を話の中に挿入した教師の心はどのようなものであったのだろうか。この俳句にある「衰着る」ほどの冷たさ（状況）を身体的に共有しただけではないのである。あの戦争を納得させる、いかなる「物語」にも言葉を奪われまいとした教師の魂がこの俳句を呼び込んだのだ。感慨でも思想でも伝えることができない状況があつて、その狭間にこの俳句があると思うのである。そしてあの戦争のその時の状況を同時代の誰が書き切れたであろうか。

俳句で、この言葉とあの言葉は「付きすぎる」と言う。言葉が生むイメージが安易に流れていくことを言うのだ。既成のイメージのなかで俳句は収まっては、死んだも同然である。私達は波郷にならつて、再度「俳句は文学ではない」と言うべきだろう。もつともつと「物語」から離れなければならないのである。

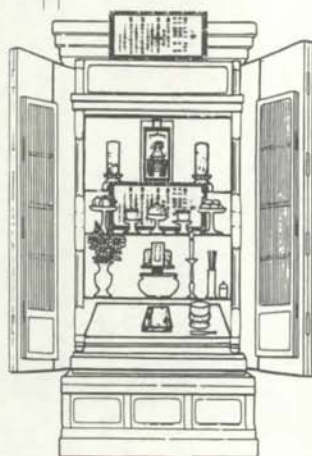
好評
発売中
!!

お寺から檀信徒へ

宗旨布教額

家の仏壇の上に掛けるものです。
菩提寺とその宗旨がいつも
ひと目で明確になります。

数をまとめて御注文下さい。



定価：大 (32.0×18.3cm) 721円／小 (27.3×14.2cm) 412円

注文・問合せは

法然上人讃仰会

〒105 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内

電話：03-3578-6947／FAX：03-3578-7036



FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では読者の自由な参加をお待ちしています。

詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、

ＴＶウォッチング、紀行文その他創作等。

あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。

どしどし編集部にお寄せ下さい。

『敬老会の感想』

後藤正三

●私はこの年齢になるまで親、兄妹に大変な迷惑をかけてしまい本当に申し訳ないと思ひから思っております。

この年齢になっても刑務所生活していることを思うと本当に情けなく思っております。ここを出所したら二度と入らないよう一生懸命に、頑張つて行きたいと思っております。年老いた母親を一日も早く安心させてやりたいと思います。

●本日自分等のような者でも敬老会に招待を受けましたことは、健康のおかげと感謝しております。それと規則に違反せず工場に出役し就業ができましたことです。これも職員さんと受刑者一同のご支援の賜と思っております。

●今日は曇り空で敬老の日としては生憎の天気でした。何回も刑務所生活をして敬老の日を祝つて貰おうとは思っておりませんでした。これも所長さん始め社会の人達の恩恵だと感謝いたしました。私も後いくばくもない命なので、これを最後として刑務所生活をお

さらばしたいと心から思っております。

●人間としてこんな所で過ごすのは間違っていると思うのですが、意思が弱いと云うか社会に出れば、すぐ苦勞を忘れて、すぐ悪事に走るので何とも情けない人生でした。六十八才にもなつて今更反省するなんて遅すぎるくらいです。学校も行かず天野先生(当所職員)に字を教えられ、社会に出て会社勤めをして、これからは刑務所に戻らないと決心した矢先、友達に誘われ、また元の木阿弥になり本当に情けない生活でした。教師の先生の話を聞いて、我々も未だ衰えず一日も早く社会復帰して頑張らなければと思いました。現在手と足がしびれて上手に字が書けずに困つていますが、できるだけ早く治して社会での仕事が出来るようにする覚悟です。

●今迄の受刑生活では一日がすぎればそれで良かったのですが、今回は自分の年というものを考え、如何に一日を大切に過ごすか、そしていかなることがあつても事故を起こすことなく職員の言葉を守り作業を精一杯努力す

る気持です。

●人間は誰しも落ちる所まで落ちると、人の情けが本当に強く我が身にしみます。

●自分自身が何故六十八才のこの年令になって迄、刑務所生活を送らなければならなかったのか、自分という者の情けなさや過去に於ての反省です。確かに人間として長寿であることは喜ばしい事です、それは社会において人生を全うした人達について言えることです。教悔師の先生の講話の如く明日の命も解らぬ人生です、また過去数回に及ぶ刑務所生活を送ってきた私ですので、必ずという事は言えませんが、今日の敬老会に出席した時の喜びと感謝の裏に潜む、真実情けないという気持を、二度と繰り返さぬよう自分自身に誓い、今後敬老会は社会において行なえるよう努力して行くことを心に決めております。老いて社会に復帰して行く自分の先行を思えば、何か淋しく感じます。社会には老いた母親が自分の帰りを待っておりますので、その気持に対しても自分がしっかりした気持をも

って幸福にして行く義務があります。この中にいるうちに働く喜びを身につけて出所する覚悟しております。

●本日の敬老の日に出席していただいた所長様始め各課長様有難くお礼を申し上げます。これからも所長様の気持を無駄にすることなく受刑生活に励む気持です。

註

この作品は十八名の受刑者の書かれたものから全文は長いので個々の作品から一節一節を纏めたものです。

受刑者の揺れ動く心情が良く表れております。

お目通し下されば社会から隔離した生活の受刑者が、出所後に不安を抱いているのが解ります。犯罪が社会の中で発生したものであれば、その更生も又社会の中で行なわなければなりません。更生保護は地域の中で心得べきであると思えます。

読者からの手紙

拝啓

貴鑽仰会「浄土」にカラー御写真で表紙をめくる初の頁より全景を、そして御塔の内部、御塔の前の二万日回向の石碑、そして大きな御葬儀の行われるときのテント、永井直勝様御尊像と御経本、そして二十八頁からのくわしい御記事有難く嬉しく拝見させていただきました。厚く御礼申し上げます。

以前の靖匡御上人様の飛行機が大変お好きであられて空中より御慈悲深い御供養の御写真を拝した時も感激いたしました。

あの時の御本は、長男が墓参に行き、いただいきてくれて、私に授けてくれ、拝読させていただきました。今回は、御施餓鬼大法要に御詣りさせていただいて授けていただいてまゐりました。

大法要のあと

靖匡御上人様が檀家の皆々様の御蔭で浄土という御本に一行院が御紹介していただけるようになりました。有難うございます。

と申された時は驚きました。

拝読させていただきなお驚きました。

くわしく記事にさせていただき檀家の端者として、とても嬉しいです。有難うございます。

私の主人は数え年八十八才で亡くなりました。

今年は十三回忌です

一度の結婚で済まなかった主人には 初妻の子 その次の次の

妻の子 亦私の子 など等腹違いの異母兄弟がありました

葬儀の席で何となく いざこざがおこり始めました

若いお上人様が「手を合せて」と申されました

思わず皆手を合せました

十念を御唱えしましょう

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

御唱和させていただいた一同は静かになりました

先祖にあわせてつけてきてくださった御戒名も立派で

私は主人を亡くして

悲しかったけれど

一行院様の御心の御慈悲に有難くて感泣いたしました

今息子達や知人に折にふれて話します

「人間は生きても百年 でもお骨は未来永劫

御世話になるのだから 生きてるうちに 無理のない自分で

出来るだけでよい功德を積む事が出来たら幸です

亦お彼岸の大法要やお施餓鬼大法要には

VOICE

家族の誰かがお詣りさせていただくようにしましょう

祖先の御魂が家の子孫は来てくれたかな 今日はどうして来ないのかなあ 他家の子孫は来ているのに 家の子孫が

来てくれないでさびしいなあ——と 現世の学校の

授業参観日や父兄会のように 子供が父兄は来て

くれたかなあ——来ないのかなあ——来てくれると恥かしいけど

なんだかとても嬉しくなつて元気が出るように

御先祖様も子孫の来てくれるのを待つていてくれると思うから……」

と七十に手のとどくようになった私はこんな話を
息子や知人にしております

恥かしい事を書いて御赦してくださいませ でも

御念佛の功德は有難いです 合掌

皆々様 御体 御大事に 御健やかに

御長寿なされて 御活躍なされてくださりませ

かしこ

合掌

法然上人鑽仰会様

御許二

七月一九日

坂本智恵子

VOICE

誌上俳壇

黄金のこづち五〇〇円やと天高し

七味売り裏にリヤカー辻祭

秋祭果ててひと雨ありにけり

さはやかに観音御身洗はれて

松本厚子
(東京都町田市)

内堀綾子
(東京都小平市)

喪の家の昨日も今日もダダチャ豆

ダダチャ豆ドラマの終る間合かな

萩こぼる水屋につゞく飛石に

ペン胼^{だこ}脈のいつしか消えて女郎花

湯桶読みの女の名前秋彼岸

割り箸のやや深くなる松茸飯

佐藤雅子（山形県上山市）

吉田ゆきゑ（東京都江戸川区）

蓮門俳子（月天）

器からはみだしており鯛雲

新蕎麦を静かにすする今日は雨

本棚の埴輪の踊り蚯蚓鳴く

鼻歌の女の背中びわ吸る

「迷い猫預かってます」いわし雲

深更にクラス会果つちちろ虫

葉（東京都大田区）

啞々砂（三重県鳥羽市）

亞子（東京都中野区）

おかげさまで

410
周年

伝統が支える

信用と技術



松井建設株式会社

本社：東京都中央区新川一丁目二番二号（TEL）三三五三・二五二一
東京支店：東京都中央区新川一丁目二番二号（TEL）三三五三・二五二一
支店：大阪・名古屋・北陸・北海道・東北・九州・横浜

秋彼岸フルーツばかりの仏の膳

こおろぎが犬の睡眠邪魔してる

十月や本棚にある改造銃

器より嘴と尾を出す秋刀魚かな

蓮門俳子（月天）

十四郎（東京都文京区）

事務局便り

事務局便り

●J・FORUM（浄土フォーラム）

ご好評を頂いております、皆様のためのコーナー（J・FORUM）。毎月、投句、投稿を頂いておりますが、編集部ではもともと多くさんの作品を、お待ちしております。短歌や俳句、書評随筆や詩、身近な出来事や情報など、先のを領でどんどん応募ください。私たち編集部では、読者の皆さんと一緒に、この「浄土」をより楽しく、すばらしいものにしていきたいと考えております。

1 随筆・歌など…四百字詰め原稿用紙十枚以内
2 俳句・短歌・川柳など…二首まで
3 その他、本誌の体裁や掲載記事に対するご意見やご感想など、何なりと気軽にお聞かせ下さい。

……適宜

タイトルは自由です。投稿は随時受け付けておりますが、採否に関しては編集部にご一任下さい。また、原稿は返却いたしませんので必ずコピーをおとりの上お送り下さい。採用分については記念品を進呈いたします。

●読者アンケートのお願い

編集部では「浄土」のより一層の充実を図るために、皆様にアンケートをお願いしております。

1 十月号でもっともよかった記事

2 今後、掲載してもらいたい記事、希望する内容

3 法然上人讃仰会の活動として望むこと

4 その他、ご意見、ご感想など。官製はがきまたはFAXで事務局までお送り下さい。もれなく記念品を差し上げます。どうぞご協力お願いします。（住所、氏名、電話番号をお忘れなく）

●お詫びと訂正

九月号巻頭、藤堂俊章台下の文中に誤植がありました。深くお詫び申し上げ訂正させていただきます。

10 頁次11行目

安屋→安置

11 頁次4行目

証真本院→証真法院

11 頁次12行目

伝記が→伝記に

14 頁次17行目

霊長→霊養



ひとりいて月の光で月を見る

岱潤

ある夏の法話の集いで、お説教師さんが道歌をご紹介します。

「おのが眼の力で見えると思うなよ 月の光で月を見るなり」

心に峻烈に残る歌でした。日ごろ自分の力である程度のことではできていると思っていました。月を見ることができ、月自身が光っていました。月を見れば見えないわけですね。そんなささいなことへの気づきが、信仰の入り口となり、どん底に落とされ、自分が独りぼっちのようなどうしようもない孤独感にさいなまれたときに、月が光っていることが、それだけでありがたく救いとなるようなことがあります。そして、その月に阿弥陀様が重なって見えてきたとき、本当の救いを感じ取るものなのでしょう。

十月はお十夜の季節です。まだかな月の輝きを見つめながらお念仏を称える声が、全国各地のお寺から聞こえてきます。実りの秋に感謝をし、ご先祖と阿弥陀様の御恩に感謝する法会がお十夜法要です。菩提寺の十夜会に参加して、生かされている自分自身への気づきを感じ取って下さい。

また、今月号から『仏教相談コーナー』を開設し、解答者に大室了睦先生になって頂きました。

今月号のような、生活の上での相談、親子の問題、夫婦の問題、恋愛のもつれなどの人生相談や、信仰の上での悩みなど、どんなことでも結構です。どしどし相談をお手紙でお寄せ下さい。お待ちしております。

(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤
斎藤晃道
村田洋一

編集協力

オフィス 頼田代表 佐山哲郎

編集顧問

大室了睦

浄土

六十二巻十月号 頒価六百円
年間費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷——平成八年九月二十五日
発行——平成八年十月一日

発行人兼編集人——宮林昭彦

印刷所——株式会社 平文社

写真植字——株式会社 シーティーイー

〒一〇五 東京都港区芝公園四一七 四明照会館内

発行所 法然上人鑽仰会

電話〇三三三五六八六九四七
FAX〇三三三五六八七〇三六



使えるよなあ、こいつ。



こんどのバルサーは、 たのしい新実用主義。

いろいろな機能性に、30コビがあるのが新しいのだ。それが、
こんどのバルサーのたのしい新実用主義。しっかり遊ぶ、
しっかり仕事する。しっかり生活する。Mr.しっかりのこれからを、
気持ちよくサポートします。

これ安心

■運転席SRSエアバッグ
システム全車標準装備。



走る走る

●快走、マルチリンクビームサスペンション(リヤ)。
●うれしい低燃費＝1500X1(5速フロアシフト)
18.2km/ℓ、1500REZZOプライマリー(5速
フロアシフト)19.8km/ℓ、10-15モード燃費/
速燃省燃費。

らくちん

●上置型のある、しなやかな乗りこころ。
●ゆったり室内スペース。

ツイてる

●新型エアコン。
●トランク、ポケット等、収納性じゅうぶん。

バルサー4ドアセダン
1500CJ-1(5速フロアシフト) **131.3万円**

バルサー4ドアセダン
1500X1(5速フロアシフト) **148.4万円**

上記価格にはメーカーオプション(3年保証)が別途加算されます。

上記価格はいずれも全国メーカー希望小売価格(税別、北海道・沖縄)

Mr. しっかり 新バルサー誕生

【Mr.しっかり】日常フダン活用。①新バルサーの別名。②新バルサーに乗る人の愛称。
③～状態……新バルサーでたのしい人生を送っている様子。

●PHOTO：バルサー4ドアセダン1500X1、ボディカラーはブルーイッシュシルバーM(3.6G1)。スポーツパッケージは
メーカーオプション。●希望小売価格は消費税・標準工賃付。寒冷地仕様は1.7万円高となります。●保険料、
税金(消費税含む)、登録等に伴う諸費用は別途申し受けます。●希望小売価格は参考価格です。価格は販売会社が
独自に決めていますのでそれぞれの販売会社にお問い合わせください。●日産自動車 お客様相談室 全国共通
フリーダイヤル ☎0120-315-232 ●お求めは、お近くのスカイライン、ブルーバード、日産サニー各販売会社へ。



みんな、自分の星を追いかけている。

駆けぬける 喉ごし。

息もつかせぬ爽快感。おいしいビールは、
喉をまっすぐに走ります。胸に一本の滝をつくります。
やすらぎと勇気をあたえてくれるもの。あなたの金星、黒ラベル。

サッポロ〈生〉黒ラベル

ビールは、20歳になってから。あきかんはリサイクルへ



① 日本酒とビールは、ともに日本の文化です。日本酒とビールは、ともに日本の文化です。日本酒とビールは、ともに日本の文化です。